

家族介護者支援ネットワーク構築に向けた研究

社会福祉法人 東京栄和会なぎさ音楽苑
〒134-0088 東京都江戸川区西葛西 8-1-1

助成事業の概要

若年性認知症支援事業（自主事業）や地域包括支援センターの相談業務で、家族介護者が情報・時間不足、協力者不在、コロナ禍によるストレス増加等の中、介護に向き合う様子を多く目にして参りましたが、サービス利用や支援機関のみでの介護者支援は十分ではないことを実感しておりました。仲間づくりの為に家族会等への紹介を試みても情報が十分に得られない現状があり、会自体もコロナ禍や高齢化等の影響にて活動が停滞している等の課題が感じられました。その為、介護者への情報提供、家族会ネットワーク構築、会の後方支援等に取り組むことで、地域全体での「家族介護者の支援体制の強化」を目指しました。

本研究事業では、【1】「家族会活動状況調査・ニーズ調査」（令和3年8月～10月）として、(1) 区内家族会・認知症カフェ実施団体への調査、(2) 区内介護・障害事業者、行政関係者等の約350の支援機関を対象にしたアンケート調査を実施。【2】「ネットワーク交流会」はコロナ禍の影響を受け中止と致しましたが「電話での聞き取り」を実施し、【1】の「調査報告書」内容を補足しました。両活動より、家族介護者支援に関する課題分析、支援方針検討に取り組みました。

事業の成果

【1】「家族会活動状況調査・ニーズ調査」

本調査では、(1) 区内家族会・認知症カフェ実施団体への調査、(2) 区内介護・障害事業者、

行政関係者等の支援機関への調査を実施致しました。コロナ禍での業務支障等を鑑み、(2)の支援機関対象調査はweb調査で実施致しました。

(1)では、これまで十分に把握できていなかった家族会・認知症カフェの実施状況、活動内容等の特徴がつかめ、今後のPR用パンフレット作成にもつながると考えております。障害者・高次脳機能障害者・認知症高齢者等、歴史も異なる様々な家族会が結成されている他、今回の調査対象に含めなかった会（精神障害者家族会、他）の情報も新たに収集でき、今後の活動に活用して参りたいと考えています。家族会・認知症カフェ共に、参加者不足（主催者側のねらいと地域ニーズのずれ）、年数経過による後継者問題、コロナ禍の影響等で、活動が停滞気味である会も確認され、会の存続・発展に向けて、情報発信・運営資金・会場提供・マンパワー確保等に向けた支援が求められている現状も把握出来ました。

(2)では、支援機関の家族会認知度の低さ（50%弱）が明らかになりました。支援者が感じている「家族介護者の悩みごと」には、認知症介護への介護負担感、障害者向けサービスの不足、等の声が多数寄せられました。「支援者が感じる介護者支援の課題」については、経済的課題に対する支援の難しさ、レスパイト対策・精神面でのサポート等に課題を感じる声が多く寄せられ、支援者のみでは解決できず、家族会等の活用が望ましいと感じられる中、支援者側の認識の低さ・家族会等の少なさ等から、現存の会が十分に活用されていない現状が伺えました。

各調査を実施するにあたり、当苑担当職員も共

に調査回答に取り組み、改めて家族介護者支援の在り方について学ぶ機会を得る事が出来た事も、成果の一つと捉えます。

【2】「電話での聞き取り」「調査報告書作成」

ネットワーク連絡会の開催が困難となった事により、調査前後の家族会等団体へ聞き取り調査を実施することで、本調査のねらい等をより丁寧に伝え、今後の活動への協力依頼、交流促進、及び調査では聞き取り切れなかった意見を補足的に確認することが出来ました。また、本調査の準備段階より行政担当者との意見交換も実施し、今後の区内家族介護者支援に向けた取り組みへ、本調査結果を活用して頂く予定となっています。今後は、本調査報告書を題材に、各団体との意見交換を進めていくことを検討しています。

成果の広報・公表

本調査報告書を基に、「家族会ネットワーク連絡会」を開催し、意見交換等により更に深く実態把握を進める予定でしたが、コロナ禍の影響も大きく、連絡会開催を見合わせる事になりました。

本調査協力団体（家族会等・支援機関）、及び調査未実施の区内家族介護者支援関係機関等へ配布し、今後当苑 HP にも研究成果を掲載予定です。今後の家族介護者支援に関する活動等にも積極的に参加を試み、本調査内容について報告して参りたいと考えております。

今後の展開

(1) ネットワーク連絡会の開催

令和 3 年度に開催を見合わせた「ネットワーク連絡会」を定期的で開催。家族会等団体・支援機関（地域共生社会拠点機関等を含む）での情報交換・交流・研修会開催等を試み、家族会活動の

活性化を目指します。高齢者・障害者の家族会間でのネットワークに加え、区内で新たに誕生している引きこもり家族会等との関係作りにも取り組むことで、引きこもりの子の親、障害者の親等の将来を見据えた長期的な支援体制の構築にもつながると考えます。

(2) 小地域でのネットワークづくり

小地域で家族会等・支援機関のコア会議を開催し、より具体的な家族会等のサポート体制検討、及び家族介護者等へのアプローチ方法を検討・実践致します。得られた成果を、区内他地域でも徐々に展開することを目指します。

(3) 家族会 PR 用パンフレットの作成・配布

支援機関向け調査にて判明した「家族会等の情報を支援者が把握していない実態」から脱却していくため、家族会等団体の特徴が掲載されている PR 用のパンフレットを作成。支援機関・支援者が家族会へのつなぎ役を担えるように、また介護者が情報収集・家族会选择に取り組める環境づくりを進めてまいります。